

2026 年度

尚綱学院高等学校  
入学試験問題

## 国 語

試験時間 (50分)

## 注 意 事 項

1. 「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
2. 解答用紙に4桁の受験番号を記入し、対応する番号をマークしてください。記入欄は裏面にもありますので、必ず記入してください。
3. マーク方式の解答欄は解答用紙の表面です。それぞれ指定されている番号の欄にマークしてください。
4. 記述方式の解答欄は解答用紙の裏面です。それぞれ決められた欄に記入してください。
5. 解答用紙は機械で直接読み込みますので、解答用紙の注意事項を正しく守ってください。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に消してください。
6. 印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
7. 考査が終わったら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
8. その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号

第一問 次の各問いに答えなさい。

問一 次の傍線部に相当する漢字を含むものを各群から一つずつ選び、その番号

をマークしなさい。解答番号は 1 6

(1) 挨拶はジュンカツ油だ。 1

① 温暖シツジュンな気候。 ② 計画はジュンチョウに進んだ。

③ 町をジュンカイする。 ④ 彼はジュンスイな少年だ。

(2) 書類をメールにテンブする。 2

① 絵をテンラン会に出品した。 ② 彼女はテンセイの能力がある。

③ テンケイ的な事例と言える。 ④ バスのテンジョウ員になる。

(3) 環境オセンにつながる。 3

① センチャを飲む。 ② センシヨクタイを観察する。

③ センモン家の意見を聞く。 ④ センタク機に服を入れる。

(4) あらかじめフセキを打っておく。 4

① 東京にフニンする。 ② フタンが大きい。

③ モウフにくるまって寝る。 ④ ソフの誕生日を祝う。

(5) 泣いている友人をナグサめる。 5

① 病院にイモンに訪れる。 ② イダイな業績を残す。

③ そのコウイは相手に失礼だ。 ④ データにイキョシした結論だ。

(6) 軽々しい行動はツツシむ。 6

① 応募作品をシンサする。 ② 寒さをシンボウする。

③ 勉強にシンケンに取り組む。 ④ 自宅でキンシンする。

問二 次の文の中に、付属語は全部でいくつあるか。正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 7

・明日には雨も上がって、青空が広がるという予報を見たよ。

① 六個 ② 七個 ③ 八個 ④ 九個 ⑤ 十個

問三 次の傍線部の品詞を一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 8

・空がだんだん明るくなる。

① 動詞 ② 形容詞 ③ 形容動詞 ④ 副詞 ⑤ 連体詞

問四 〈Aさん〉の中学校では、家庭でのインターネットの利用のあり方について、

利用する目的や時間を見直そうという声があがりました。そこで、生徒たちは

「ネット利用を考える委員会」を発足させ話し合いをしました。次は、委

員会での【話し合いの一部】と、家庭における【インターネットの利用のあ

り方】について、その話し合いを経てまとめたものです。後の(1)～(5)の問い

に答えなさい。

【話し合いの一部】

〈Aさん〉今回インターネットの利用のあり方について考えようというきっかけとなつたのは、総合的な学習の時間にネットの利用時間と学力調査の点数の関係が資料として提示されたことでしたね。

〈Bさん〉利用時間によって六つのグループに分けた場合、最も点数が高かったのが「一時間未満」の生徒で、「普段はまったくしない」生徒は「二時間未満」の生徒より点数が低く、それらに次いで、「三時間未満」、「四時間未満」、「四時間以上」の生徒の順に、どんどん点数が低くなっていました。

〈Cさん〉インターネットを利用する時間が長ければ長いほど、点数が下がって

いるということですね。

〈Dさん〉 そうとばかりは言えないのではないですか。それなら「普段はまったくしない」生徒が一番よい点数をとっているはずだと思います。

〈Aさん〉 確かにそうですね。これはどう考えたらよいでしょうか。

〈Bさん〉 たとえば、本当は利用したいが、自分の意志に反して利用できない環境にあるということが考えられるでしょうか。

〈Cさん〉 いえ、それはないと思います。インターネットの利用状況は、中学生で98・6%だという資料がありました。となると、「普段はまったくしない」という生徒は、単に日常的に利用することに興味がないだけだと考えられます。

〈Aさん〉 なるほど。では時間を決めて効果的に活用することが大事だと言えそうですね。

〈Dさん〉 あとは利用する目的ですね。ネットを利用して勉強することや、オンライン授業を受けることも可能になっていますから、利用時間が長いことが一概に悪いとは言えません。

〈Aさん〉 利用の目的については、投稿やメッセージの交換、検索、動画を見る、などが上位を占めていました。

〈Dさん〉 決まった目的がなくても気分転換という利用も大切だと先生が言っていたので、目的に応じて時間を決めるといいことがよさそうですね。

(以下話し合いが続く)

### 【インターネットの利用のあり方】

まったく利用しないのもよくないが、自分で時間を決めて時間を有効に活用できるように、現状を見直してみることが大事だ。

・利用時間が「一時間未満」の生徒が、よい点数をとっていたことから、一時間を目安にできるだけ一日に利用する時間を決める。

・利用する目的が何であるかを振り返る。必要な利用(勉強や調べ学習など)

以外の、明確な終わりのない利用(気分転換など)について時間が長すぎないか見直す。

・インターネットの利用状況に注意するだけでなく、普段から規則正しく生活を送れるように計画を立てる。

・計画を立てる際は、インターネットを利用する時間を明記する。

(1) 「ネットの利用時間と学力調査の点数の関係」とあるが、これについての説明として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は

- ① 普段はまったく利用しない生徒は二番目に点数が高かった。
- ② 普段はまったく利用しない生徒は三番目に点数が高かった。
- ③ 利用時間が「三時間未満」の生徒は三番目に点数が高かった。
- ④ インターネットの利用時間が長いほど点数が高かった。
- ⑤ インターネットの利用時間が長いほど点数が低かった。

(2) 「興味がない」とあるが、この意味の慣用句として最も適切なものを一つ選び、

- ① 糸目をつけない
- ② 気が置けない
- ③ 食指が動かない
- ④ 反りが合わない
- ⑤ 目がない

(3) 「言っていた」を正しい敬語表現に言いかえたものとして最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

- ① 申されていた
- ② ご覧になっていた
- ③ 伺っていた
- ④ おっしゃっていた
- ⑤ お話していた

(4) 【話し合いの一部】を読んで、それぞれの参加者についての説明として最も適切なものを選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 12

① 〈Aさん〉の発言に対しては、〈Bさん〉が常に直後で発言する形で話し合いが進んでいる。

② 〈Cさん〉が意見をまとめたあと、〈Dさん〉に否定されたが、それは誤りだと思っただけで反論している。

③ 〈Cさん〉は、常に〈Bさん〉のあとに発言し、賛成の立場から意見を補足したりまとめたっている。

④ 〈Dさん〉は、〈Cさん〉と〈Aさん〉のあとに発言し、それぞれ発言のおかしいところを指摘している。

⑤ 〈Aさん〉はその他の参加者による話し合いを受けて、議論を展開させたり、内容をまとめたっている。

(5) 【話し合いの一部】や【インターネットの利用のあり方】の内容として適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 13

① 総合的な学習の時間に提示された資料から、生徒の中には自分の意志に反してインターネットを利用できない環境の人がいることがわかる。

② インターネットの利用目的としては、メッセージの交換や動画を見ることが以外に、勉強に利用したり気分転換を行ったりすることも考えられる。

③ インターネットの利用についてはその目的以上に、それぞれの目的に応じた利用時間を決めて効果的に活用することが重要であると言える。

④ 気分転換のように特定の目的のないインターネット利用も大切ではあるが、利用時間が長くなりすぎているか十分に注意をする必要がある。

⑤ インターネットの利用時間についての計画は大切だが、そもそも規則正しく生活するためにそれ以外についてもきちんと計画を立てるべきである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

役所の職員である「おれ」は、〈街角の詩〉という文化事業で朗読の音源を集めているうちに心を動かされ、ボランティアとして録音会を継承することにした。

—— プログラムは書いたコードの通りにしか動かない。コンピュータは人間じゃない。だから、お前の考えている以上のことは絶対に実行できない。忘れるなよ。

当時はピンと来なかったが、その言葉は不思議と頭に残った。エンジニアとしての経験を積むに従い、先輩の言葉はおれのなかで重みを増していった。

延々とコードを書いていると、プログラムが人間のように思える瞬間があるのだ。稀に、自分が書いたとは思えないほど見事なコードが書けたり、ありえないバグが発生したりする。時おり、プログラムに意思が宿っているような気がするが、もちろんそれは勘違いであり、理性を失いかけているに過ぎない。大事なものは、己を見失わず冷静に仕事をする事だ、とその言葉は教えてくれた。

結局、プログラムはどこまでいっても人間になれない。

その思いは朗読を聴くたびに強まった。誰かの朗読を聴くたび、機械との違いを見せつけられるような気がした。朗読は一度きりだ。同じ人が同じように読んでも、まったく同じ朗読は二つとない。おれたち人間は自分でも制御できない混沌をかかえていて、詩を読むたびに混沌のかけらが飛び散る。そしてそれを再現することは絶対にできない。だからこそ、ひどく美しく見える瞬間がある。

今、ひとりの女性が朗読を終えた。おれはレコーダーのスイッチを切り、拍手を送る。朗読が終わるたび、拍手をすることになっていた。女性は照れ笑いを浮かべながらステージを降り、入れ替わりに次の演者が上がる。

ここは、路地を抜けた先にある地下ライブハウス。例のライブに参加した時と同じ会場だった。

(中略)

三十数名の参加者に対して、事務局はひとり。何とか無事に進んでいるのは、

てんでこ舞いになっていられるおれを見かねて、手伝いを申し出てくれた参加者たちがいるからだ。おかげで、おれはステージの進行と録音に集中できている。

壮年の男性が熱演を終え、笑顔でステージを降りた。しかし次に登壇する演者がいない。拍手を送りながらフロアを見渡す。

「次の人は？」

誰からも返事がない。居残って見物している人たちは、互いに顔を見合わせている。

「今の方で最後までいいです」

受付を担当していた参加者からそう告げられた。「そうですか」と答えると同時に、**B**肩の力が抜けていくのを感じる。長時間にわたる録音は、自分が思う以上に神経をすり減らしていたらしい。

「じゃあ、録音会もこれで終わりですね」

誰からともなく、拍手が起った。フロアには参加者の半数以上が残っている。

こんなに多くの人が見届けてくれたことに感極まり、涙腺が **X** 緩む。思えば、本当の意味で主体的に何事かをしたのは、これが人生で初めてだったかもしれない。

「本当にありがとうございました」

拍手がやみ、朗読サークルの人たちが目の前に来て頭を下げた。あまりに低頭するので、こちらのほうが申し訳なくなる。

「そんな、そこまで大したことじゃ」

「でも、なくなりそうだった(街角の詩)をこうして続けてくれたんだから、やっぱりありがたいことです。私らにとっては、誰かひとりでも聴いてくれる人が増えるなら、こんなに嬉しいことではないですから」

**C** 半世紀ほど年上の男性が、混じりけのない笑顔を見せた。

鼻の奥がつんとした。上を向いて涙を堪える。やっぱりやってよかった。一步踏み出したのは間違いじゃなかった。初めて、正面から他人に認めてもらえた気がする。

解散の空気が流れはじめたころ、「ちよつといいか」と太い声が響いた。無精

髭を生やした三十前後の男には見覚えがある。先日のライブでベースを弾いていた。**D**

「こいつが言いたいことあるらしいけど」

そうやって、隣に立つ気弱そうな男を親指で示す。彼はライブで朗読を担当していた。皆の注目を浴びるなか、青ざめた顔で唇を震わせている。ついさつきもステージでは堂々とした態度を見せていたが、ずいぶん対照的だ。

「……ステージに、立ってない」

虫の羽音くらいの声でようやく吐き出したのは、そのひと言だった。

「そうですか？ さっき録音したと思いますけど」

彼が朗読していたことは明確に覚えている。困惑するおれに、ベースの男が付け加えた。

「違う。あんたさんのことだよ」

二人の男の視線はおれに注がれていた。

「おれは、演者じゃないから。この会を開いただけだし」

たつぷりと沈黙を置いてから、応答が返ってきた。

「……いいんですか」

誰もが目を見張るようなパフォーマンスをしていたあの男が、緊張で震えながらおれにそう言った。態度だけ見れば人が変わったようだが、その奥底にはステージ上にいた時と同じ、熱さを感じた。

胸の奥でくすぶっていた火が、勢いを増していく。

誰かの詩を聴きながら、本当はずっと思っていた。おれにも詩が作れるかもしれない、と。本当は作りたいんだ、と。街に流れる詩を耳にするたび、身体の内側が言葉で満たされていくようだった。今、体内には行き場のない言葉たちがいっぱい詰まっている。

おれはプログラムじゃない。人間だ。人間はきつと、誰でも詩を読むことができる。

気づけばフロアにいる皆がおれを見ていた。詩人たちは、視線でも詩を語る。その場にいる全員の詩情が、塊になっておれの背中を押していた。だからといっ

て、おいそれと人前で詩を読めるものではない。

「最初から、そんなつもりなかったし」

「本当か？」

ベースの男が首をかしげる。

「本当は、自分もあっち側に行ってみないと、一度くらい思ったんじゃないの」

「おれはステージに上がるような人間じゃない」

「そうかな。ステージのほうは拒否してないと思うけど」

男が顎をしゃくくる。振り返れば、そこには照明を浴びたステージがあった。主のいないスタンドマイクが Y たたずんでいる。別の参加者が、おれの代わりに最前列で録音の準備をしていた。

「立ってみてよ」

そう言ったのは別の声だった。視線を下ろしていく。少女と言っているいい年齢の子が、おれを見上げていた。外国にルーツがあるのか、南米系らしき顔立ちをしていた。

「立ってみてよ。気持ちいいから」

人前で詩を読む自分を想像しようとしたが、うまく思い描けない。何をどう読めばいいのだろう。しかしここまでお膳立てされたら、後には引けない。少女は丸い目でおれをじっと見ている。

「……立っただけなら」

Z、壇上にかかる。暗いフロアからの視線が突き刺さった。緊張が喉元まで込みあげる。仕事のプレゼンとは別種の緊張だった。自分の心中を人前にさらけ出すことへの恐怖。朗読者たちは、常にこんな緊張と闘っていたのか。

やはり、おれには無理だ。こちら側の人間じゃない。

降りようとした時、真っ白になった頭にある一筋が映し出された。本当に、これを読んでいいのか。その先は続くのか。何もわからないが、黙って降りるよりはましだと思った。ここに立った以上、言葉を発するのが礼儀だ。ためらいを振り切り、すぐるようにそれを読み上げる。

『街角の詩』

この企画の名前であり、今まで懸命に集めてきたものだった。街のあらゆる場所に散らばった言葉の断片は、ひとつひとつはか細く、存在感を發揮できないかもしれない。だけど、いくつもの詩が集まって形になった時、誰も見たことのない景色が広がる。

それが、この街の本当のかたちだ。

余裕などない。思いついた言葉を片端から口にしていく。後先は考えない。考えられない。浮かんでは消えていく影を追いかけるように、必死で舌を動かす。

街を歩けば

耳にいくつも詩が飛び込んでくる

それが詩だとは知らなかった

何気なく聞き流していた言葉たち

違う意味を持ち始める

おれは全部の言葉を抱きしめたい

マイクに向かって叫ぶ。細工なんかない。ただ、自分の声を思うままに発する。F。

網膜のスクリーンに言葉たちが映写される。この詩を読めるのは、世界でおれだけ。コードを切り貼りするように、真似することなんて誰にもできない。空っぽだった心が言葉たちで満ちている。

生まれて初めて、言葉を話している気がした。フロアからの視線は意識の外へと消えていた。唾を飛ばし、喉を嚙らしながら語り続ける。ただ語りたい、という欲求が突き動かす。

(岩井圭也「街角の詩」による)

問一 空欄 X、Y、Z に入る言葉として最も適切なものを一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は X 14 Y 15 Z 16

X ① さらりと ② じわりと

③ はらりと ④ ゆらりと

Y ① むつつりと ② こっそりと

③ ひっそりと ④ どっしりと

Z ① おずおずと ② てきぱきと

③ ゆるゆると ④ おろおろと

問二 「誰かの朗読を聴くたび、機械との違いを見せつけられるような気がした」とあるが、ここでいう「機械との違い」として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 17

① 機械は人間の書いたコードの通りにしか動かないが、人間はコードそのものを無限に生み出すことができるという違い。

② 機械は同じことの繰り返しを目的としているが、人間は常に新しさを生み出すことを目的として行動しているという違い。

③ 機械は人間の考えている以上のことはできないが、人間は自分では考えが及ばないものも作り出すことができるという違い。

④ 機械は同じことを何度も再現できるが、人間のすることは一度きりのもので全く同じことは再現できないという違い。

⑤ 機械は感情を持たないため常にプログラム通りに動くが、人間のすることは感情に左右されることがあるという違い。

問三 「肩の力が抜けていくのを感じる」とあるが、このときの「おれ」の様子として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 18

① 自分が運営し、長時間にわたって行われた録音会が無事に終わったことに安心するとともに、緊張感がやわらいでいる。

② 録音会には意外と多くの参加者がいたように感じていたが、予想よりも早く終わってしまったので、拍子抜けしている。

③ 自分一人でてんてこ舞いになっていたところ、参加者が手伝いを申し出てくれたおかげで成功し、皆に感謝している。

④ 多くの参加者が集まっていたように感じられたが、実際に登壇する演者は少なかったので、ほっと安心している。

⑤ 一人一人の朗読に心酔するあまり、時間が思っているよりも早く過ぎていったことに驚きと戸惑いを感じている。

問四 「鼻の奥がつんとした」とあるが、このときの「おれ」の様子として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 19

① なくなりそうだった〈街角の詩〉を続けようという思いが「おれ」以外には感じられず、悲しみに泣き出している。

② 自分が好きで企画したことであるのに、他人から感謝とねぎらいの言葉をかけられて、誇らしさと喜びを感じている。

③ 自分が思いきって踏み出した一步を他人から認めてもらったことに感激し、喜びのあまり泣き出しそうになっている。

④ 本意ながら始めたことではあったが感謝までされ、苦勞が報われたことが嬉しくて泣きそうになっている。

⑤ 朗読サークルの人たちが自分に頭を下げることに気が引けつつも、喜んでもらったことに素直に感謝している。

問五 「言いたいこと」とあるが、それはどういうことか。最も適切なものを一つ

選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 20

- ① 〈街角の詩〉が無事に終了を迎えようとしているので、「おれ」にお礼と開会の挨拶をしてほしいということ。
- ② 〈街角の詩〉を企画した「おれ」に感謝はしているが、朗読していないので同志としては認められないということ。
- ③ 〈街角の詩〉の事務局として関わった以上、詩作をしてきたはずなので「おれ」の朗読を披露してほしいということ。
- ④ 〈街角の詩〉で朗読した者たちが味わった緊張感を、企画者である「おれ」にも味わってほしいということ。
- ⑤ 〈街角の詩〉を続けてくれた「おれ」にもステージに立つてもらい、自分たちと同じような景色を見てほしいということ。

問六 「ステージのほうは拒否してないと思うけど」とあるが、このときのベアの男の心情として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 21

- ① フロアにいる観客が「おれ」の登壇を待ち望んでいることを伝え、期待を裏切らないよう願う気持ち。
- ② ステージに上がることに消極的な「おれ」を勇気づけ、ステージに上がるよう促そうとする気持ち。
- ③ 実はステージに上がりたいと思っていた「おれ」に対し、観客にはばれていることを論そうとする気持ち。
- ④ ステージに上がることを拒み続ける「おれ」に対していらだちを覚え、なんとか説得しようという気持ち。
- ⑤ 今回の企画をした「おれ」に登壇してもらい、詩を聴かせてもらうことを心待ちにしている気持ち。

問七 空欄 F に入る表現として最も適切なものを一つ選び、その番号を

マークしなさい。解答番号は 22

- ① それがこんなに呆気ないことだなんて、知らなかった
- ② それがこんなに喜ばれることだなんて、知らなかった
- ③ それがこんなに気持ちのいいことだなんて、知らなかった
- ④ それがこんなに恐怖を感じる事だなんて、知らなかった
- ⑤ それがこんなに緊張を感じる事だなんて、知らなかった

### 第三 問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

みなさんにも、「弱ったな、どうしたらいいか全然わからないぞ」と思った経験があるのではないだろうか。例えば、数学の問題を解いているとき、外国語で話しかけられたときなど、自分にとって解決が難しい問題に直面したときに、よくこういう気持ちになりますね。逆に、クイズの答えが分かったときや、問題解決の糸口が見つかったときに、「わかったぞー」とか「ああそうだ、これで解決できるぞー」と嬉しくなったりした経験もあるのではないだろうか。

こういった経験は、私たちが自分自身の頭の中がどういう状態になっているかを把握しているということを表しています。「頭の働き」のことを「認知」と呼びますが、「わかった」とか「わからない」といった感覚は、私たちが自分自身の「認知」を把握しているということを指しています。「認知を把握すること」も「頭の働き」ですから、これは「認知」の「認知」ということになります。この表現ではわかりにくいので、自分の頭の中がどうなっているかを適切に把握することは「メタ認知」と呼ばれています。「メタ」というのは「一段上の」という意味です。ですから、メタ認知は「(認知の)一段上の認知」という意味になりますね。

メタ認知をうまく働かせることは、さまざまな課題を実行したり、問題を解決したりするうえでとても重要です。数学の問題を解いているときの例でいうと、「わからない」ということに気づけば「違う解き方をしてみよう」とか「もう一回教科書の例題を確認しよう」といったように、自分の取り組み方を変更するきっかけを作ることができるからです。英単語や資格試験で必要な知識などを覚えようとしているときも、「まだ覚えられていない」ことがわかっていれば「もう少し勉強しよう」と勉強を続ける判断をしやすくなりますが、まちがって「もう大丈夫」と考えてしまったら「勉強は終わりでいいや」と判断してしまうでしょう。よりよい理解のためにはメタ認知が適切に働いて「わからない」ことが分かることが重要だと言えます。「わかった」「わからない」のような、頭の中の現状把握をする働きを、特に「メタ認知的モニタリング」と呼んでいます。

メタ認知的モニタリングで「わからない」ことが把握できたとして、それで終

わつては意味がありません。「違うやり方でやってみよう」と方向性を変えたり、「このままもう少し続けよう」と続行したりする判断ができることも重要です。このとき、自分の進む方向を指し示すような頭の働きは「メタ認知的コントロール」と呼ばれています。

メタ認知的モニタリングとコントロールそれぞれがうまく働き協調することで、私たちはよりうまく問題に立ち向かうことができるのです。X、これがうまくいくためにはいくつかな必要な知識があります。そのうちのひとつが、「人に關する知識」です。たとえば、「電話番号を一回聞いただけで覚えるのは難しい」とか「睡眠不足だと頭が働かない」というような人間一般の認知のあり方について、あるいは「自分が一番集中して勉強できるのはリビングのテーブルだ」というような自分自身の認知のあり方の特徴についてわかっていることがモニタリングやコントロールに関わる「人に関する知識」です。

また、「課題に関する知識」も重要です。Y、取り組もうとしている課題がどのくらい難しいかが分かることは、モニタリングをうまく働かせるためには特に重要です。

Z、「方略に関する知識」も適切なモニタリングとコントロールには必要な知識です。ある問題を解くためにどのようなやり方ができるのか、今自分はどういうやり方をしているか、どんなやり方に変更できるか、知識がなければ判断することができません。

ここまで、メタ認知について、「問題を解いている状況」やなにか「解決したい課題があるとき」を念頭にお話ししてきましたが、文章を読んでいるときも、メタ認知の働きは重要です。たとえば、あなたが、ここまでの説明を読んで「なんだか抽象的でよくわからないな」と思っているとしたら、それは読解においてあなたの「メタ認知的モニタリング」が（おそらく適切に）働いているという証拠です。このモニタリングを受けて「もう一回読んでみよう」とか、「別の本に説明があるか見てみよう」「例えばどういうことか自分で例を挙げてみよう」などいくつかのやり方が思い浮かんだとすると、それは前に書いたような知識を使いながらメタ認知的コントロールが働いているということです。「わからない」というこ

とが適切に把握できたとしても、その先どうするか、うまくコントロールするためには知識も必要であるということです。

メタ認知はうまく働いてくれるときばかりではありません。人はときに「わかつたつもり」になってしまつて、自分がうまく理解できていないことを見逃したり、「わからない」と把握しても「まあいいか」と放置してしまうこともあります。たとえば、文章の中に明らかな矛盾があつても、その矛盾を無視してしまうというメタ認知的モニタリングの失敗が起こることがあります。子どもの認知についてたくさんの研究をしたマークマンは、小学校三年生に次のような文章を読ませて、こうした失敗が生じることを示しています。

アリは遠くまで出かけるので道に迷わないように特別な方法を使います。帰り道を見つげられるように、目に見えない印をつけるのです。アリたちはどこかに行くと体から特別な化学物質を放出します。この化学物質は目に見えませんが、特別な臭いがあります。この化学物質の臭いを嗅ぐための鼻が必要です。アリに関してほかのお話をすると、アリには鼻がありません。アリは、決して道に迷いません。

大学生はこのような文を読むとすぐに「おかしい」と気づきますが、小学生の多くはこの矛盾に気が付きません。この研究の面白いところは、「なにか筋が通らないところがあるかもしれない」筋が通らないというのはこういうことです」と説明してから矛盾点を見つけるように指示すると、小学生も矛盾を見つけられるというところです。つまり、小学生だから記憶力が少ないのだから、とか矛盾することが理解できないのだから、という推測は誤りで、「矛盾するところを見つけよう」という心の準備をすれば、適切にメタ認知的モニタリングを働かせることができるということです。

(犬塚美輪「読めば分かるは当たり前? 読解力の認知心理学」による)

問一 空欄 X、Y、Z に入る言葉として最も適切なものを一つずつ選び、その番号をマークしなさい。同じ番号は二度使えません。

解答番号は X 23 Y 24 Z 25

- ① 例えば ② または ③ さらに  
④ しかし ⑤ すると

問二 「問題を解決したりするうえでとても重要です」とあるが、メタ認知をうまく働かせることが問題を解決する際に重要なのはなぜか。その理由として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 26

- ① 原因がわからないまま間違つた方向に進んでいくことがなくなるから。  
② 問題への取り組み方をより適切なものに変更するきっかけとなるから。  
③ 的確な状況把握につながり課題を実行する際の自信がわいてくるから。  
④ 他人に相談したり質問したりする機会を得るきっかけとなるから。  
⑤ 多くの問題を解くことに疲れても認知能力が低下しなくなるから。

問三 「メタ認知的モニタリングとコントロール」とあるが、その二つの関係を説明したものととして最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は 27

- ① メタ認知的モニタリングとメタ認知的コントロールは互いの働きに影響を与えない。  
② メタ認知的モニタリングとメタ認知的コントロールの働く順序は定まっていない。  
③ メタ認知的モニタリングとメタ認知的コントロールは常に同時に働く。  
④ まずメタ認知的モニタリングが働き、次にメタ認知的コントロールが働く。  
⑤ まずメタ認知的コントロールが働き、次にメタ認知的モニタリングが働く。

問四 「これがうまくいくためにはいくつか必要な知識があります」とあるが、その知識の例として適切でないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は **28**

- ① 人の脳には、わからないことに遭遇したときに「まあいいか」と流すことで負荷を軽減する働きがあるという、人体に関する知識。
- ② パスワードのような何の意味もない記号の羅列は暗記することが難しいというような、人間一般の認知のあり方に関する知識。
- ③ 自分は昼間よりも夜中の方が頭の中がさえて考えがよくまとまる、といった自分自身の認知のあり方に関する知識。
- ④ 取り組もうとしている課題が、これまでにクリアしてきた課題と比べてどのくらい難しいかを理解する課題に関する知識。
- ⑤ 課題をクリアするために考えられるアプローチの仕方を検討したり、改善したりする、方略に関する知識。

問五 「文章を読んでいるときも、メタ認知の働きは重要です」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **29**

- ① 文章の内容が「わからない」と気づくことができれば、自分の今の力で読みこなすことができる難度の本かどうか判断できるから。
- ② 文章の内容が「わからない」と気づかなければわからないまま読み進めてしまうが、気づけば「わかる」ための対処ができるから。
- ③ 文章の内容が「わからない」と気づくことができれば、もう少し簡単な本を読む必要があるとわかり、読解力の向上につながるから。
- ④ 文章の内容が「わからない」と気づかなければ、なんとなく読み進めることで文章を最後まで読破することができるから。
- ⑤ 文章の内容が「わからない」と気づくことができれば、一つ一つ言葉の意味を辞書で調べることによって知識を増やすことができるから。

問六 「この矛盾」とあるが、どのようなところが矛盾しているのか。その内容として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は **30**

- ① アリは体から特別な化学物質を放出すると述べる一方で、その化学物質とは何の関係もなく道に迷わないと述べているところ。
- ② アリが道に迷った時に特別な匂いを放出すると述べる一方で、その匂いを嗅がなくても道に迷わないと述べているところ。
- ③ アリは道に迷わないように印を付けると述べる一方で、その印は目に見えず、匂いを嗅ぐことで道に迷わないと述べているところ。
- ④ アリが道に迷わないためには鼻が必要だと述べる一方で、アリには鼻がないにもかかわらず道に迷わないと述べているところ。
- ⑤ アリが道に迷わないためには鼻の有無など関係が無いと述べる一方で、鼻がないから道に迷わないと述べているところ。

問七 「矛盾点を見つけるように指示する」とあるが、その結果どうなると言っているか。「メタ認知的モニタリングがうまく働くようになる。」に続く形で、五十文字以内で書きなさい。解答は裏面の解答欄『第三問 問七』に記述すること。解答番号は **31**

第四 問 次の〈文章〉の古文と、それに対する〈会話文〉を読んで、後の問いに答えなさい。

の問いに答えなさい。

〈文章〉

ある時、夜更けて樋口屋の門をたたきて、酔を買ひにくる人あり。<sup>\*1</sup> 中戸を奥へは幽かに聞こえける。下男目を覚まし、「何程がの」と云ふ。<sup>\*2</sup> 「むつかしながら一文がの」と云ふ。空寝入りして、そののち返事もせねば、ぜひなく帰りぬ。夜明けて亭主は、かの男よび付けて、何の用もなきに「門口三尺ほれ」と云ふ。<sup>\*4</sup> 御意に任せ久三郎、諸肌ぬぎて鋏を取り、<sup>\*5</sup> 堅地に気をつくし、身汗水なして、やうやう掘りける。その深さ三尺と言ふ時、「銭があるはず、いまだ出ぬか」と云ふ。「小石・貝殻より外に何も見えませぬ」と申す。「それ程にしても銭が一文ない事、よく心得て、かさねては一文商も大事にすべし」

(「日本永代蔵」による)

【注】

- \* 1 中戸：表の店と奥の居間を仕切る戸。
- \* 2 むつかしながら：ご迷惑でしょうが。
- \* 3 一文：お金の単位。
- \* 4 三尺：長さの単位。
- \* 5 堅地：堅い地面。

〈会話文〉

先生 夜が更けて酔を買いに来た人がいましたが、下男の久三郎はどんな対応をしたのでしょうか。

Xさん 【 A 】。

先生 久三郎はどうしてそんな対応をしたのでしょうか。

Yさん 【 B 】 と思ったからでしょう。

先生 その翌朝主人は久三郎に地面を三尺掘るように命じましたが、これは久三郎にどのようなことを教えるためでしたか。

Zさん 【 C 】 ということを教えるためです。

先生 皆さん、よく読んでいますね。

問一 「やうやう」を現代仮名遣いに直したものとして最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 32

- ① やふやふ      ② ようよう      ③ やくやく
- ④ よくよく      ⑤ ようやく

問二 空欄【 A 】に入る言葉として最も適切なものを一つ選び、その番号を

マークしなさい。解答番号は 33

- ① どれくらい必要か聞いたあと、無料で酔を渡しました
- ② 誰が来たのかをたずねたあと、無料で酔を渡しました
- ③ どれくらい必要か聞いたあと、帰ってくれと言いました
- ④ 誰が来たのかをたずねたあと、寝ているふりをしました
- ⑤ どれくらい必要か聞いたあと、寝ているふりをしました

問三 空欄【 B 】に入る言葉として最も適切なものを一つ選び、その番号を

マークしなさい。解答番号は 34

- ① 商い中ではないので、時間を守らせよう
- ② 相手が誰か分からないので、用心しよう
- ③ 相手が知らない客なので、放っておこう
- ④ 一文程度のもので、わざわざ動くのはよそう
- ⑤ 一文程度のものであれば、大目に見てやろう

問四 空欄【 C 】に入る言葉として最も適切なものを一つ選び、その番号を

マークしなさい。解答番号は 35

- ① 一文であっても貴重なので、小さな商売でも粗略にしてはいけない
- ② 一文であっても必要なものなので、困っている人を見捨ててはいけない
- ③ 一文であっても酢は買えるのだから、きちんとお金をもらいなさい
- ④ 一文であっても大切なのだから、丁寧に穴を掘って隠しておきなさい
- ⑤ 一文であっても価値はあるのだから、時間の使い方工夫しなさい

― 問題は以上です ―

# 2026年度 尚絅学院高等学校 入学試験問題

## B 日程 解答用紙【国語】

受験番号			
0	0	0	0
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

得点欄(記入しないこと)

1. 記入欄・マーク欄以外には記入しないでください。
2. 鉛筆で、しっかり濃くマークしてください。
3. 間違った場合には、消しゴムで、きれいに消してください。

マーク例

良い例	<input checked="" type="radio"/>	悪い例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----	----------------------------------	-----	-----------------------	-----------------------

### 第一問

番号	解答欄				
1	①	②	③	④	⑤
2	①	②	③	④	⑤
3	①	②	③	④	⑤
4	①	②	③	④	⑤
5	①	②	③	④	⑤
6	①	②	③	④	⑤
7	①	②	③	④	⑤
8	①	②	③	④	⑤
9	①	②	③	④	⑤
10	①	②	③	④	⑤
11	①	②	③	④	⑤
12	①	②	③	④	⑤
13	①	②	③	④	⑤

### 第二問

番号	解答欄				
14	①	②	③	④	⑤
15	①	②	③	④	⑤
16	①	②	③	④	⑤
17	①	②	③	④	⑤
18	①	②	③	④	⑤
19	①	②	③	④	⑤
20	①	②	③	④	⑤
21	①	②	③	④	⑤
22	①	②	③	④	⑤

### 第三問

番号	解答欄				
23	①	②	③	④	⑤
24	①	②	③	④	⑤
25	①	②	③	④	⑤
26	①	②	③	④	⑤
27	①	②	③	④	⑤
28	①	②	③	④	⑤
29	①	②	③	④	⑤
30	①	②	③	④	⑤
31	解答欄は裏面です				

### 第四問

番号	解答欄				
32	①	②	③	④	⑤
33	①	②	③	④	⑤
34	①	②	③	④	⑤
35	①	②	③	④	⑤



国語 (B日程)

大問	小問	枝問	解答番号	配点	正解	備考
第一問	問一	(1)	1	2	①	
		(2)	2	2	④	
		(3)	3	2	②	
		(4)	4	2	③	
		(5)	5	2	①	
		(6)	6	2	④	
	問二		7	2	④	
	問三		8	2	④	
	問四	(1)	9	3	②	
		(2)	10	4	③	
		(3)	11	2	④	
		(4)	12	2	⑤	
		(5)	13	3	①	
第二問	問一	X	14	2	②	
		Y	15	2	③	
		Z	16	2	①	
	問二		17	4	④	
	問三		18	4	①	
	問四		19	4	③	
	問五		20	4	⑤	
	問六		21	4	②	
第三問	問一	X	23	2	④	
		Y	24	2	①	
		Z	25	2	③	
	問二		26	4	②	
	問三		27	4	④	
	問四		28	3	①	
	問五		29	4	②	
	問六		30	3	④	
	問七		31	6	「矛盾するところを見つけよう」という心の準備ができて、うまく理解できないことを見逃すことがなくなり、(メタ認知的モニタリングがうまく働くようになる。)	50字
第四問	問一		32	2	②	
	問二		33	2	⑤	
	問三		34	3	④	
	問四		35	3	①	